第98号
令和元年６月

弓削商船だより

独立行政法人 国立高等専門学校機構 弓削商船高等専門学校

〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000番地 TEL 0897-77-4617 FAX 0897-77-4680
企画広報室 情報・広報係 ホームページアドレス http://www.yuge.ac.jp/

平成31年度 入学式 4月

目次

チーム弓削商船 …… 1
保護者の皆様へ …… 2
“悔いなき学生生活”の実現のために …… 2
寮務主事報告事項について …… 3
弓削商船高専ファンへ! …… 3
教育の質を保証する制度について …… 4
高専型研究開発モデル「四国モデル」の構築に向けて …… 4
世界に通用する海技士をめざして …… 5
電子機械工学科の教育および学生活動について …… 5
情報工学科の教育について …… 6
総合教育科の役割について …… 6
専攻科でもっと楽しい研究体験 …… 7
新任教員の紹介 …… 7
平成30年度卒業式修了式 …… 8
平成30年度S科・M科・I科卒業研究テーマ …… 9
平成30年度M科・I科卒業生各賞受賞者 …… 10
平成30年度M科・I科卒業生就職・進学先一覧 …… 10
平成30年度専攻科（生産システム工学専攻）
修了生就職・進学先一覧 …… 11
平成31年度入学式 …… 11
平成31年度前期級長・副級長・学級担任一覧 …… 11
商船2年生 海技教育機構による短期実習 …… 12
KCC国際インターンシップ紹介 …… 12
留学生・チューターとの花見会 …… 12
地域創生コーナー …… 13
各種行事のアルバム …… 14
学生相談室 …… 15

チーム弓削商船

校長
石田　邦光

この4月に本校の校長として着任いたしました。前職は鳥羽商船高専の教務主事をしておりました。よろしくお願いいたします。

高専の技術者教育は，今日，海外でも注目され，新聞や雑誌等に特集記事がしばしば掲載され，その素晴らしさが紹介されていますし，社会から大いに期待されている高等教育機関であるといえます。国立高等専門学校機構の高専は，MCC（モデルコアカリキュラム，全国立高専の学生が最低限身につけるべき知識と技能）に基づく教育を行うことで教育の質保証を行っています。一方で，高校のような指導要領がないため，カリキュラムを組む上では，かなりの自由度があり，時代に応じた教育がしやすい環境にあると言えます。その意味では，進歩する技術教育の手法をいち早く取り入れ，効率的な成果を上げることができます。

今，世界はグローバル化が急速に進み，人工知能やIoTといったイノベーション技術が第4次産業革命を引き起こし，日本においてもSociety5.0の実現を目指しています。近い将来，現在存在する仕事の50%はAIに取って代わられるという予測さえあります。また，世界は人間と地球が抱える多種多様な課題（17の目標と169のターゲット）からなるSDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）の達成に向けて，いろいろな機関がこれまでになかった形で協働しようとしています。そこに求められているのは，単なる技術開発ではなく，時勢を捉えて社会に使われ，そして貢献できる社会実装です。このような激動の時代に高等専門学校が果たすべき，または担うべき役割は何でしょうか。そして，高専においてどのような学びを提供し，どのような人材を育成していかなければならないのでしょうか。校長としての思いを，この場を借りてお話ししたいと思います。

高専の学生に求められる学びは，教わることではなく，自分で考え疑問や課題を解決していくことであり，そうした知識と技術力を付けることです。そのためには，自ら進んで問題に取組み，行動し，解決の道を探ることが重要です。とはいえ，こうしたことに一人で取り組むことには限界があります。多くの場合は，仲間と共にチームを作り協力し合いながら切磋琢磨していくことになります。こうした経験こそが，社会で活躍できる素養を身に付けることにつながり，学生を大きく成長させてくれます。これからは，学校だけが学びの場ではありません。学校から飛び出して，多くの経験を積むことが必要になってきます。

弓削を含む上島町は離島です。そして離島であるからこそ，多くの解決しなければならない課題があり，学びの素材に事欠きません。前任の井瀬校長先生は“離島工学”と名付けて，地域が抱える課題に「ものはこび」を得意とする商船学科と「ものづくり」を得意とする電子機械工学科・情報工学科の視点からアプローチする事を提案されていました。私もその考え方に大いに賛同するところであり，本校の学生の成長と学校の発展に結びつくとともに，お世話になっている地域にも貢献できるものと確信しています。

こうした学びを定着させていくためには，地域の方々との連携が不可欠であり，学生のみならず教員も一緒になって，学びの場を作っていく必要があります。この地域で抱えている課題は，日本中，いや世界中で存在し，その解決を待っているはずです。つまり，本校が地域と一緒になって取り組んだ課題解決は，世界にも通用するはずです。

こうした学びを構築するためにやらなければならないことは，たくさんあります。

地域の課題に取り組むからには，地域のことを学ぶことも，当然必要ですが，それでは視野が狭すぎます。極端な言い方をすれば，グローバルな考えや見方も必要です。そこに，思いもよらなかったアイディアが隠されている場合があります。

保護者の皆様へ

教務主事 **藤本　隆士**

新入学生の皆様，入学おめでとうございます。また，在校生の皆様、新学期が始まり，心を新たに勉学に取り組んでください。

オープンキャンパスや入学前説明会でも話しているので，新入学生とその保護者の方は記憶にあるでしょうが，高専は高校と異なり，卒業すると短大卒，専攻科を卒業したときは，大卒の資格をとれる高等教育機関に分類される学校です。規則なども大学に準じて運用されています。授業も高校より厳しく，一年生のときから，専門科目を学ぶことになります。このように，高専は5年間の教育を通して一般教養と専門知識を身に付けるように教育課程が作られていますので，学生達を長い目で見て成長を見守って欲しいと思っています。

一年生には「初年次教育」として，担任の他に総合教育科と専門学科の教員による学力向上のための補習を行っています。しかし，勉強は，受け身の姿勢で教わってもできるようにはなりません。自分から積極的に取り組む姿勢がないと実力は身に付きません。例えば小学校のときに九九を教わりますが，家に帰ってからも唱えて暗記するまで練習を繰り返していたはずです。高専でも同様に，その時々で練習を繰り返すことで身につけねばならないことがあります。

特に親元を離れて寮生活をしている学生は，自分で勉強の計画を立て，課題は期限を守って提出するといったスケジュール管理が必要になります。そこで，入学時には「高専手張」を配布して，ホームルームのときに，宿題やレポートの提出日を記入させるなどして，自己管理の基本ができるように指導しています。二年生以上も，自分の好みの方法で自己管理を続けてください。

本校に入学後，高専に慣れていない学生に対して，学級担任だけでなく学生相談室の教員と連携して支援に取り組んでいます。また，生活面ではハラスメント防止教育，情報モラル教育，喫煙や飲酒の害などに関する教育など，安全に社会生活を送るための指導を行っています。

工業系学科には「地域創生演習」という科目があります。これは，地域の問題、課題を工学的な視点で解決していこうとする姿勢を育む科目で，本校では「離島工学」と呼んでいます。学生が学年，学科を超えたグループで活動し，自らが解決方法を考えて行動することで、柔軟な創造力を身に付け，今後の時代の変化に対応できる技術者に育って欲しいと考えています。

保護者の皆様とも協力しながら，社会に貢献できる人財に育つように導いていきたいと考えていますので，よろしくお願いいたします。

“悔いなき学生生活”の実現のために

学生主事 **水崎　一良**

本年度より学生主事を拝命しました水崎と申します。日頃は，体育教員として全学科・全学年の学生の学びに触れ，心身の成長はもちろん，人間力の高まりを感じることができる距離におります。私の教育活動のこだわりは，「各々の学生が思考を活性化し，仲間とともに真剣に課題に取り組む姿勢を促す」ことです。これにより，社会で生きるための人間力を磨き，社会で自分らしく生き抜く力を育てる一助となっていると感じております。これまで培った経験を最大限に生かし，学生主事として“学生ファースト”の理念に基づき，学生・保護者の皆様・教職員のつながりを大切にしながら，「チーム弓削商船」が前進し続けられるよう努めたいと思います。

本校の魅力は，恵まれた瀬戸内の豊かな自然の中で，“エンジニアという明るい未来にチャレンジできる”ことです。学生が日々のチャレンジを生かし，校訓である“みなぎる気力と，たゆまぬ努力で，めざそう，悔いなき学生生活”の実現ができれば，明るい未来が待っています。本校では，学生が社会に直結した実践力を身につけ，社会に貢献できることを前提とした行動規範の徹底を，全教職員の共通理解のもと，全員で学生指導・支援にあたっております。目標設定としては，「①ゴール:学生生活を通して，社会人に求められるスキルを身につける，②テーマ:目標を目指し，安定・充実した高専生活の支援，③キーワード:目標・社会性・生活習慣」を掲げております。

とてもシンプルな内容ですが，卒業後や将来の自分のあり方を考え，各々の学生が“目標”を定め，高専生活を送るスキルを身につけるためには必要不可欠なものです。学生がゴールに到達するため，全学年を通じたキャリア教育（インターンシップ，キャリア教育フォーラムなど），クラブ活動（高専体育大会，高専ロボコン，高専プロコン，高専デザコン，四国地区総合文化祭，リーダー研修など），学生会活動（ボランティア活動，校内美化・交通安全・みだしなみ等の啓蒙活動，商船祭，校内体育大会など）など，盛りだくさんのチェレンジの場（行事）があります。これらのチャレンジを有意義なものにするため，社会人として求められるコミュニケーション能力や規範意識などの“社会性”を身につけるとともに，それを支える“生活習慣”の確立が重要となります。

本校の学生指導・支援により，学生ファーストの「悔いなき学生生活」を実現するため，学生・保護者の皆様・教職員のつながりにこだわる学校であり続けられるよう，ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

寮務主事報告事項について

寮務主事 **寶珠山　輝生**

寮務主事の寶珠山（ほうしゅやま）と申します。今年度も寮務主事業務を継続することになりました。宜しくお願いします。

弓削商船高等専門学校には，白砂（しらすな）寮という設備があり，学校教育設備として運用されています。2019年4月現在，477名の寮生が寝起きを共にして生活しています。寮は時間や規則に従った生活を基本としています。よってある程度の堅苦しさや不自由を経験することになります。

しかし，それに引き換える大きな人間性も得ることができます。集団生活の中ではコミュニケーションは必要で，特に「あいさつ」は重要なコミュニケーションの一つです。またその中で，上下や横の仲間意識が育まれ，集団生活の基礎を習得しつつ，一生付き合える仲間を作り出すことができます。このようなことから，コミュニケーション能力や集団生活の基礎を身に着けた人材が多いため，寮生は採用を考える企業でも注目されることがあります。このようなことから，挨拶ができる，集団生活を意識した寮生活が送れるように寮生には伝えています。

寮運用の現状について報告します。現在，477名の学生が入っている状況ですが，昨年から比べると，今年度の入寮者数は更に希望者が増加傾向にあることが分かります。今まで寮生受け入れ数確保のため寮務関係者の中でいろいろと工夫を行ってきましたが，これも限界に近い状況です。その対策として新しい寮宿泊設備を新設することになり，現在それは進行中の状況で，将来的には更に80名の受け入れが可能になると思われます。しかしこれらが設立したとしても，生活インフラ関係の設備がその寮生数にゆとりのない状況なので、寮生の協力が欠かせません。一例を挙げると，寮食堂は一度に寮生の食事を行う能力がなく，混雑時間が長い等の問題もあります。時間差対応や速やかな食事の対応で学生に協力するように周知をしております。このように多数の寮生が不自由な状況の中で生活していますが，その中から社会性や集団生活の基礎を学んで頂けたらと思います。

学生時代，寮を経験した小職としては，是非体験してもらいたい集団生活の場ですが，寮の設備の限界に近い現状では，その上に学生に不自由や我慢をお願いすることになります。

このような状況ではありますが，現状について学生や保護者の皆様のご理解とご協力が頂けたら幸いです。また寮でのトラブルや気になることがあれば寮や学校にご連絡いただけたら幸いです。今後とも宜しくお願いします。

弓削商船高専ファンへ！

広報主事 **田房　友典**

今年度より広報主事を務めさせていただきます。私は平成元年に本校情報工学科に入学し，卒業後に編入学，大学院，企業を経て平成11年に本校に赴任しました。本校は，昭和44年に3学科120名の定員となって以降，変動する歴史の中で学科改組を行いながら，現在も同じ120名の定員を保っています。小中学校の統合，地方の大学などが定員割れ問題を抱える中，本校をはじめとする高専は定員を変えず，毎年社会に1万人の卒業生を輩出しています。これは，高専のカリキュラムや人材育成方法が社会で評価されている証拠です。

本校では，今年度も桜の花が満開を迎える頃，120名の本科1年生が入学してきました。その内寮生は，104名で1年生全体の約87%を占めます。少子化が進む島嶼部では，多くの寮生を受け入れなければ学校を運営することができません。ただ，遠方からの学生を受け入れるだけではなく地域に馴染んでもらい，地域で必要とされる人材や高専として存在していく必要があります。

我々教職員がチーム一丸となり，学生の育成を行うことは無論のこと，今年度からはじまったKOSEN4.0のテーマとして掲げる，学生や教職員の地域連携事業を推進していきます。また，学生の活躍やイベントの様子，日頃の学校生活なども本校HP（http://www.yuge.ac.jp）やSNS（インスタグラムとフェイスブック，QRコードにアクセスください）を活用して，保護者の方々へ発信し，お子様と離れていても学校の様子がわかる高専へと変化します。

保護者の皆様には，弓削商船高専を応援していただき弓削商船高専ファンになっていただきたいと思っております。新入生の保護者の方とは，4月6日入学式の折に5分間だけお話をさせていただき，多くの保護者の方に本校のPR資料をお持ち帰りいただきました。本校の発展には保護者の皆様の力も必要なことを確信いたしました。

保護者の皆様，お子様の応援はもちろんですが，我々と一緒に熱烈な弓削商船高専ファンになって下さい。学校説明用の資料が必要であればいつでもお問合せください。

教育の質を保証する制度について

副校長(企画・評価担当) **多田 光男**

平素から本校の教育活動につきまして，ご理解，ご協力，ご支援いただきまして感謝いたします。

私は平成29年度から現在の役職に就き，3年目となります。役職名は副校長（企画・評価担当）です。いまさらという感じもしますが，一体どのようなことをする役職なのか再確認する意味で少し振り返りつつ，職務に関連して教育の質を保証する制度について簡単に説明してみたいと思います。

企画・評価担当の副校長は平成25年度から新設された役職で，教務主事が担っていた多くの職務の一部を肩代わりする意味合いが強かったものと理解しています。「弓削商船高等専門学校内部組織規則」（平成16年12月制定）には，「副校長は，校長の職務を補佐するとともに，校長から指示された特命事項を処理する。」（同規則第6条第3項）と規定されていますが，その中で企画・評価を担当する副校長の一般的な職務の範囲は，その窓口となっている企画係の受け持つ事務と密接かつ不可分な関係を持って分担されていると理解しています。

具体的には，企画に関連する部分では，中期計画・年度計画，公開講座などに関連した事項を，また，評価に関連する部分では，自己点検・評価や外部評価に関連した事項を受け持っています。

ここでは紙面の許す範囲で，評価に関連した事項について少し説明してみたいと思います。

学校教育法では，その教育研究水準の向上に資するために文部科学大臣の定めるところにより，高等専門学校の教育及び研究，組織及び運営並びに施設及び設備（以下「教育研究等」という）の状況について自ら点検及び評価を行い，その結果を公表することと規定されています（同法第109条第1項）。そのため，本校では当該教育研究等について毎年1回自己点検・評価を行うとともに，外部有識者を委員として構成された本校の運営諮問会議で教育研究等について毎年諮問を行い，その結果をまとめて「自己点検・評価報告書」を作成し，ホームページで公表しています。このような制度を一般に「内部質保証制度」といっています。

学校教育法では，上記のような自己点検・評価とは別に，文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関である独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による7年以内ごとに実施される評価（以下「認証評価」という）を受審しなければならないと規定しています（同法第109条第2項）。この認証評価制度のことを「外部質保証制度（公的質保証制度）」といっています。

認証評価は，法律で定める公的検査制度としての性格も有しており，不合格になると教育機関としての存在意義そのものが問われることになります。本校は直近では2013年（平成25年）度に受審して合格していますので，次回は2020年度の予定で，東京オリンピックイヤーにあたります。そのため，一昨年度に認証評価受審WGを立ち上げ，認証評価の受審に備えています。当該結果も本校ホームページで公表します。

いろいろご迷惑おかけすることもあるかと思いますが，ご協力，ご指導の程，よろしくお願いいたします。

高専型研究開発モデル「四国モデル」の構築に向けて

副校長（研究担当） **筒井　壽博**

この度，研究担当副校長を拝命致します商船学科の筒井でございます。早いもので前職の株式会社本田技術研究所から本校に奉職し5年目を迎えます。本校ではこれまで主に地域共同研究推進センター（以下，地共研センター）の運営をとおし，あるいは商船学科5年生の進路指導をとおして地域の方々や企業方々には大変お世話になりました。また，学術学会活動と致しまして，平成30年12月1日には学内の多大なるご協力を頂き，日本機械学会 技術と社会部門の副部門長として本校にて技術と社会部門の部門講演会を，また翌2日には「海から訪ねる環境管理の原点」と題しマイントピア別子の見学会をそれぞれ開催することができました。この場を借り，厚く御礼を申し上げます。

さて，これまで我が国の高等専門学校は大学や大学院とは一線を画した独自の教育理念のもと，社会の変化に柔軟に対応し，常に時代の求める実践型技術者の素養を身につけた人材を輩出して参りました。

しかしながら，近年のIoTやAIに普及にみられるような急速な技術ベースの遷移に対応するためには，このような高専教育の一層の進化が求められております。これに呼応し，企業様との共同研究等の場で学生を総合的に指導する教育プログラムの構築などが模索される中，地共研センターの運営の工夫等により，特に，専攻科学生の特別研究の環境整備と研究活性化に繋げる施策が期待されております。

その中のひとつに教職員の職務発明の利活用があると考えられています。従来，高等専門学校の教職員の職務発明は全て国の財産として扱われることから，現在のところ職務発明を企業様等へ譲渡するためには複雑な手続きと費用が発生します。

しかしながら，もし共同研究の業務の中で得られた発明をすべて企業様に譲渡可能とするような契約が予め締結できるようになれば，教職員の研究活動と企業様の開発業務との間には，これまで以上のより一層win-winな関係構築の可能性を高めます。

大学や大学院のような充実したリソースを擁する組織では，オープンイノベーション構想のもと大掛かりな組織対組織の契約を手掛けるところが多くなってきておりますが，このような大掛かりなオペレーションはおそらく高等専門学校には適当ではないでしょう。

弓削商船高等専門学校という小さい組織ならではのフットワークと風通しの良さにより，このような職務発明を利活用した小規模組織としての高専型デファクトスタンダードとなり得る研究開発モデルとして，その有効性を検証できるよう四国の他の高専のみなさまとも手を携えて全国の高専に先駆けた「四国モデル」を確立できればと考えています。

みなさまのご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

世界に通用する海技士をめざして

商船学科長 **村上　知弘**

平素より本校の教育活動につきまして，ご理解，ご協力いただきまして誠に感謝いたします。

本年度より学科長を拝命いたしました村上と申します。よろしくお願いいたします。

私は今年度で本校25年目となります。近年は，商船系5校で協力して行ってきた海事人材育成プロジェクトに強く携わってきました。これらを進展させていく過程で商船高専生が社会で活躍するためにどうすればいいのか議論してきました。ますますグローバル化が進む国際社会においてどのような学生を輩出していったらいいか，社会のニーズはなにか，学校教育としてできることはなにか，このようなことを考えながら過ごしてきました。

グローバル化においては，商船学科として校内に放課後英会話教室を設け，外国人講師と自由に懇談できる時間を設けました。また，海外からの高校生などが来校した際には，商船学科の学生と共にカッターを漕いだり，ソフトボールをするなどの交流を行ってきました。昨年はアメリカからの短期留学生が商船学科5年生のクラスに入るなど，日常的に外国人とふれあう機会が増えました。さらにハワイ大学カウアイコミュニティカレッジでの国際インターンシップにも毎年数名参加し，フィリピンの商船大学への交換留学も積極的に行い，商船学科の学生は外国人との交流を積極的に楽しむようになってきたように感じています。

また，商船学科では5年前より4年生以上のTOEIC受験率が毎年100%を達成しています。クラス平均はクラスにより345点から280点ぐらいと決して高得点とは言えませんが，トップ層は確実に増え，現在商船学科5年生で665点，商船学科4年生で790点を取った学生も出てきています。一方，2級海技士筆記試験以上に合格している学生が，現在(H31.4)5年生が7名，4年生が6名となっています。4月の試験ではさらに増えていると思います。3年生もクラスの雰囲気が海技士筆記試験合格に向けて頑張り始めた空気を感じます。1･2年生は専門的な勉強はこれからですが，先輩たちの勉強する空気感を感じてほしいと思っています。

我々商船学科教員も全員一致団結して，学力及びやる気の向上を最大の目標として今年度も尽力していく所存です。

今後とも，ご理解，ご支援の程、よろしくお願いいたします。

電子機械工学科の教育および学生活動について

電子機械工学科長 **ダワァ ガンバット**

皆さん，こんにちは。電子機械工学科のガンバットと申します。

本科では，全教員が一丸となって学生達の教育，研究，インターンシップ，就職，部活動の指導にあたっております。電子機械工学科では，平成30年度から新カリキュラムで教育を行っております。学年ごとの特徴は，以下の通りです。

1年生:新カリキュラムで，一般科目以外に「設計製図1」，「工作実習1」で専門の知識を身に付けます。「工作実習1」では，ロボットのプログラミング，旋盤，レーザ加工の実習を行います。また，勉学を励みながら10月に行われる弓削丸航海実習の準備に取組むようになります。

2年生:新カリキュラムで，一般科目以外に「基礎機械制御工学」，「情報処理1」，「工作実習2」で専門の知識を身に付けるようになります。「工作実習2」では，電気工作，電機計測，NCフライスの実技，電気･ガス溶接の基本実技，エンジンの分解･組立，ロックオンユニットの製作実習を行います。

3年生:今年度は，5月に2泊3日の弓削丸航海実習で，大分県にあるキヤノン株式会社の見学を行いました。また，電気工事士の資格を取得するチャンスもあります。12月には，「キャリア教育フォーラム」として，数十社の企業を招きます。会社の説明を聞き，自分達の将来のビジョンを固めることができる良い機会です。

4年生:夏季インターンシップを通して，自分の希望する職種や業種に関する企業の中で実際に働いてみて，自分の思い描く業種･職種に思い違いがないかを確認します。

5年生:卒業研究で，今まで学んできたことの仕上げをします。学生達は5年間を通して，各種大会を目標に一生懸命頑張っており，昨年度も数々の成績を残してきました。例えば:

- アイディア対決･全国高等専門学校ロボットコンテスト2018四国地区大会(10月)で，特別賞を受賞しました。
- 第15回全国高等専門学校デザインコンペティション「デザコン2018　in北海道」AMデザイン部門(11月)で，審査員特別賞を受賞しました。
- 2018Ene1GP鈴鹿KV-BIKEチャレンジ全国大会(8月)，大学，高専，専門学校部門で3位入賞，一般部門を含めたクラスIの総合成績で4位を獲得しました。
- Hondaエコマイレッジチャレンジ2018第32回鈴鹿大会(6月)で，準優勝を獲得しました。
- Hondaエコマイレッジチャレンジ2018第34回九州大会(8月)で，大会特別賞を受賞しました。
- 国立モンゴル科学技術大学で行われた国際インターンシップ(8月)で，言葉の壁を越えたコミュニケーションの大切さを理解し，「地球人」としての自覚が生まれました。

皆様も，身近に電気や機械に興味があり,本学科で学びたいという中学生がいましたら，是非,7月20日(土)，21日(日)に開催されるオープンキャンパスに訪れるよう勧めてください。よろしくお願いいたします。

情報工学科の教育について

情報工学科長 **高木　洋**

日頃から本校の教育を理解し，協力していただきありがとうございます。本年度より情報工学科長となりました高木と申します，よろしくお願いいたします。

情報工学科の教育ですが，昨年度までと同様，社会に求められる技術力を身につけ，さまざまな状況に対処できる人間力を持つことのできる学生を育てることが目標です。学年が進むにつれて，要求されることは多くなりますが，各学年で次のような教育を行っています。

1学年:情報工学関連の授業は少ないですが，コンピュータリテラシ教育を中心に情報工学の基礎を学んでもらいます。また1学年からキャリア教育を行い，自分の将来の進路について考えてもらいます。

2学年:「電磁気学」や「論理回路」といったコンピュータの動作原理に関する授業もありますが，プログラミング教育が始まります。プログラミング教育は4学年まで続きますのでじっくり時間をかけ，知識を与えられるだけでなく問題を解決する能力を身につけてもらいます。また，選択科目ではありますが，「海事工学演習」では独立した一つのシステムである練習船弓削丸に乗船しその仕組みを知るとともに，会社訪問を行いキャリア教育の一環としています。

3学年:3学年から情報工学関連の授業が増えます。コンピュータの仕組みやプログラミングだけでなく，アプリケーションからネットワークまでシステムエンジニアとしての素養を身につけてもらいます。

4学年:さらに情報工学関連の授業が増え，学生たちはかなり忙しい日々を送ることとなります。「情報工学実験」では後期に創造性実験を行っており，作成するものの企画からその実現まで自分たちの力で行ってもらいます。さらに，夏季には企業のインターンシップに参加したり，「海事工学演習2」で再び練習船弓削丸での航海を体験し，会社訪問を行うことになります。年度末には進路の希望を明確にするために，これらの体験を有意義に活用してもらいたいと思います。

5学年:授業は選択科目主体でそれほど忙しくなくなりますが，5年間の弓削商船高専における勉強の集大成である卒業研究があります。

このほかにも各種資格試験へのチャレンジやプログラミングコンテストやETロボコンへの参加，地域創生演習での上島町との協力など学生主体の活動もたくさんあります。

情報工学科教員は全力で学生のチャレンジをサポートしていきます。これからも，ご理解，ご支援のほど，よろしくお願いいたします。

総合教育科の役割について

総合教育科長 **雙知　延行**

3つの学科以外に総合教育科があります。総合教育科では，数学，英語，国語，理科，社会，体育，保健，芸術，第2外国語，日本語（留学生）などの一般科目の授業を行います。主に，1年生から3年生の低学年で授業をすることになります。高学年では一般科目が減り専門科目が主体となりますが，専門科目を理解するために，その基礎となる一般科目を担います（専攻科でも授業をします）。

例えば，将来，船乗りになった場合を想定します。海上の2点間の最短距離は地図上では2点を結ぶまっすぐな線ではなくて丸く迂回しているように見えることや，大円上の2点間の距離であることを船乗りは知っています。2点間の距離はおそらく簡単にコンピュータで計算できますが，コンピュータが故障した場合を想定すれば自力で距離の計算ができた方が船乗りは安心かもしれません。高学年の専門科目で「球面三角法」も勉強し，その距離を計算できることを知っておくことになります。しかし，実際にその公式を用いて計算をするためには「三角関数」を知らなくてはできません。弓削商船高専の1年生の数学において，「三角関数」についてじっくりと時間をかけて学習します。あるいは，将来，通信機器を開発する仕事に就く場合やゲームクリエイターになる場合もまた，「三角関数」と関わることになります。このように，将来の自分の姿から何が必要なのかを逆算して，高専では学習していることになります。逆算して，高学年と低学年で，何と何を学ばなければいけないという風にカリキュラムがつながっていくのです。

また，そういった科目だけでなく，社会や語学や芸術（音楽，美術，書道）で一般教養を磨き，コミュニケーション能力を養います。様々なものに触れて，自分は何を大事にするのかを考えてほしいです。また，体育の授業では，体力を付けるだけではなく，チーム競技を通してチームワークも体得します。

単位を取って進級していきますが，「単位さえ取れればよい」という価値観の学生もいて，そのような学生は試験が終わるときれいに忘れてしまって実力が付きません。到達度試験という実力を測る試験も行っていますので，復習を定期的にして，得たことが将来の仕事や研究に役立つように自分を磨いてほしいと思います。

また，学級担任や初年次教育や相談室のスタッフとして，総合教育科の多くの教員が関わりますので，学習面，生活面で困ったことがありましたら，気軽にご相談していただきたいと思います。

専攻科でもっと楽しい研究体験

専攻科長 **長尾　和彦**

高専は実践的技術者を養成するための高等教育機関として広く社会に認知されている。そのため，就職率は極めて高い。「就職に有利」この言葉で高専を選んだ学生も少なくないだろう。大学生と比しても遜色ない実力を備えていると評価されている。

しかし高専卒は准学士と称され，短大卒と同列に扱われ，学歴を気にする層からは低く扱われてきた。学歴でも負けてはいられない。そんな思いから専攻科が生まれたのであろう。本校では工業系学科を母体とする生産システム工学専攻（定員8），商船学科を母体とする海上輸送システム工学専攻（定員4）の2専攻を持つ。慣れ親しんだ学校や研究室のまま，大学卒と同等の学位（学士）が得られるのである。進学先としてはかなり安心できるものといえよう。

専攻科に進学すると研究を行わなければならない。自分にできるだろうかと腰が引ける学生もいるかもしれないが「心配ご無用」である。高専は地域に根ざした研究テーマを持った教員が多く，地元の人々から喜ばれる研究に携わることができる。KOSEN4.0でも提言した「離島工学」「海洋クラウド」など，本校でなければできないテーマが目白押しである。適切なテーマを見つけて，こつこつと作業を進めていけばそんなに難しいことはない。今年度から，主査・副査による研究指導体制を充実し，学生をバックアップしていく予定である。

教員も研究の活性化に取り組んでおり，平成31年度科研費では5件の新規採択がなされた。

専攻科の多くの先輩は，学会発表を行い，大学生はもちろん大学院生と同レベルの評価を得ている。就職条件も本科と同等以上であり，不利益となることはない。

指導教員と共に研究課題に取り組め，大学院進学，就職もできる専攻科，自身を持って「おすすめ」である。

新任教員の紹介

情報工学科 助教 **梅木　陽**

2019年4月より採用となりました，梅木陽です。よろしくお願いします。

秋田高専，長岡技術科学大学の出身であるため，学生のみなさんからすると先生というより先輩に近い立場かもしれません。学生の皆さんがおそらくこれからするであろう経験や失敗は，大抵私の身にも覚えのあることでしょう。なので，困ったときに力になれる先輩という接し方をしていただければ嬉しいなと思います。

研究分野は画像処理を主にやっており，画像内から人間の目を惹く領域を検出するという技術を研究しています。SNS等に使われている技術で「顕著性検出」という言葉を見つけたら，それが私の分野です。ちょっとだけ興味を持って見ていただけたら嬉しいです。

さて，私事になりますが私は高専在学時から「高専の先生」という職業を目指して勉強，研究を続けてきました。というのも，私の母校には個性的で面白い先生が多く，勉強だけでなく人間的なことについてもたくさんのことを教えてくれたからです。私は，私の師にあたる人たちのように，たくさんのことを伝えられる先生になりたいと思い邁進してまいりました。まずは，その夢が叶ったことを嬉しく思うと共に，ここからがスタートだという意識を強く持って教職に就きたいと思います。

学生の皆さんはまだお気づきではないでしょうが，高専で過ごす5年間というものは年齢的にも，経験的にもとても重いものです。とても楽しいことが多く，長く過ごした仲間は一生のものになります。私の友人もいまだに多くの付き合いがあります。その反面，辛いことや嫌なことも，もちろんあります。それら全部をひっくるめて「よかったな」と最後に言える学生生活を築いてください。

総合教育科 助教 **藤原　崇雅**

2019年4月22日より，総合教育科で助教として勤務しております，藤原崇雅（ふじわらたかまさ）と申します。科目は，国語を担当しております。

私は鴨川が流れ，多くの社寺が並ぶ，京都の中心部で生まれ育ちました。御苑の横にある大学で国文学を学び，この3月にそこを離れたばかりです。メディアでよく，「京都人」という言葉を耳にしますが，私もその一員かもしれません。

ただし，古都としての側面だけでなく，京都は国際色豊かな都市でもあります。観光客はもちろん，何世代も住んでいる外国籍の方々も珍しくありません。当地で育った経験を活かし，本学の掲げる教育方針である，国際的視野をもつ人材の育成に励んで参ります。

京都で国文学というと，源氏物語など古典のイメージがありますが，私は明治以降の近現代の時期に書かれた作品を専門としております。特に，中国文学者でもあった，武田泰淳という作家に注目しています。夏目漱石や樋口一葉のような有名人ではありませんが，国語便覧には載っていますので，学生のみなさんはもしよければご覧下さい。

担当科目は国語ですが，研究における必要上から，大学では中国語の学習に多くの時間を割いてきました。留学してはいませんが，第二外国語の授業に加え，中国人の朋友との練習も重ね，基本的な日常会話であればこなせます。外国語と比較して，初めてわかる日本語の特徴も，これからお伝えしていけたらと考えている次第です。

授業では，情報の収集整理や，それに対する論理的な意見の構成といった，専門科目にも活きる力の育成を目指して参ります。末尾になりましたが，ご期待に添えるよう一所懸命努力致しますので，保護者や地域の皆様，今後のお導き何卒宜しくお願い申し上げます。

新任教員の紹介

総合教育科 助教　宮本　賢伍

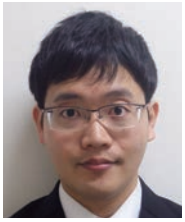
2019年4月に総合教育科に着任いたしました宮本です。科目は数学を担当いたします。学生，保護者，教職員および関係者の皆様，どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度までは大阪大学の特別研究員として，数学の研究に勤しんできました。よく「数学の研究って何をするんだ」と訊かれます。数学には様々な分野があるので一概にはいえませんが，例えば数学者のあいだの未解決な問題に証明を与えて論文にまとめ発表するなどがあります。数学に未解決な問題なんてあるの?って感じですが，世界にはまだまだ未解決問題があります。

私の研究分野は「多元環の表現論」と呼ばれる分野です。表現論ときくと「文章表現」「表現技法」など国語やメディア関係かなと思いがちですがそうではなく，立派な数学の分野です。「多元環」というのは整数のように足し算，引き算，掛け算ができるようなものをいいます。高専のみなさんは「線形代数」というものを2，3年生で学びます。こんなことを言えば専門家の先生方に怒られそうですが，多元環の表現論は「線形代数を駆使して多元環に関する未解決問題を解いてやるぜぇ!」という分野です。

とはいえ，数学とか無理ぃ!という人も多いと思います。私も高校時代は連立方程式が解けませんでしたし，中学の頃は赤点ギリギリでした。数学はセンスとかいいますが，そんなことありません。しっかりと向きあって一つ一つ理解すれば必ずわかるようになります。数学が日常生活に直接役立つとはいいませんが，数学を学ぶことで身につく論理力と思考力はこれからの人生で必ず役に立ちます。無理といわずに共に向き合っていきませんか。

今年度からの着任で皆様からみれば至らない点も多くあると思いますが，精一杯取り組んで参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



総合教育科 助教　板垣　浩正

2019年4月1日付けで総合教育科，英語担当教員として着任いたしました板垣浩正（いたがきひろまさ）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

生まれは愛知県ですが，大学は福島県で過ごし，その後大学院を大阪で暮らしました。日本を転々とした結果，関西弁や東北弁など，各地の方言が混ざった話し方になってしまいました。弓削商船高専に移ったことで，これからさらに瀬戸内の方言が混ざるとなると，一体どんな話し方になってしまうのでしょう?今から楽しくも怖くもあります（笑）

さて，実は今の話，私の研究と全く関係ないわけではありません。私の専門は「言語学」と呼ばれる分野，つまり「ことば」の仕組みを考えるのがお仕事です。関西弁も東北弁も同じ「日本語」だけれども具体的には何が違うのでしょう?私たちは幼いうちから日本語がペラペラなのに，なぜ英語はこんなにも苦労するのでしょう?ちょうど今使った「ペラペラ」という表現，どういう意味か説明できますか?これらの疑問はすべて言語学が関心を持つ問題です。

私は，その中でも英語の仕組みを考えることに一番関心を置いています。たとえば，日本語の「窓を開けてもいい?」という表現は英語で“Can I open the window?” となりますが，わざわざ助動詞Canを付けて，冠詞theを付けて，語順を入れ替えています。面倒臭いですね…。なぜこんな面倒なことをしているのでしょう?じっくり考えてみると，実はそれなりの理由があるのです。

みなさんとの授業でも，「考える」時間を設けたいと思います。単純に英単語を覚えるのではなく，みなさんと一緒に考えて，新たな発見を見出せたら幸いです。英語は暗記科目ではありません。

改めましてどうぞよろしくお願いいたします。

平成30年度 卒業式修了式

平成31年3月9日（土）10時20分より，本校第二体育館において，平成30年度電子機械工学科・情報工学科卒業式および専攻科（生産システム工学専攻）修了式が挙行されました。

卒業生および修了生は，電子機械工学科27名，情報工学科46名，専攻科生産システム工学専攻5名の合計78名でした。卒業生・修了生は，校長，来賓，保護者，教職員，在校生列席のもと，校長の式辞や来賓祝辞，祝電の披露を受けました。続いて在校生総代（伊藤清里菜さん）の送辞，卒業生総代（中山嶺さん）の答辞があり，卒業生は今後の精進への決意を新たにしていました。

平成30年度 商船学科5年卒業研究テーマ

タイトル	学生名	指導教員
貝殻を用いたコンデンサーの作成	近藤　拓斗	柳沢　修実
マルチフェロイックデバイスの開発	山本悠梨恵	柳沢　修実
マルチフェロイック物質の微細構造解析と組織分析	濱岡　　潔	柳沢　修実
旋盤による錠剤成型器の作成	高松　　奨	柳沢　修実
コミュニケーションに着目したERMスキル計測手法の検討	笹野　莉子, 中村　友菜	中村　真澄
BRM訓練の現状とBRM訓練・弓削バージョンの提案	竹井　　潮, 松岡　理人	山崎　慎也
備讃瀬戸航路とマ・シ海峡航路におけるVTSの比較検討	曳田　叡利	山崎　慎也
登録海技免許講習実施機関の設備に関する研究	岡　　駿典, 高橋　佑弥	二村　　彰
中四国地域の外航クルーズ船の寄港状況と誘致活動について	越智　匡輝, 杉本　和駿	野々山和宏
海技士取得率向上の勉強法	岡　久正志, 宮崎　　将	寳珠山輝生
塩化ナトリウム水溶液中における液体プラズマの研究	岡本　直也	佐久間一行
Pythonを用いた磁気プローブデータ処理プログラムの開発	松井　大成	佐久間一行
磁気プローブの開発およびプラズマの磁場計測	木村　太一	佐久間一行
入学者志願者確保のための商船学科ＰＲについて―高専in徳島イベントにおける小学生の感想文からの解析―	宮崎　　匠, 小川　竜輝	湯田　紀男
「帆船の研究-Ⅵ-　～近代帆船の艤装模型の制作～	室田　大成, 村上　寛起	高岡　俊輔
環境負荷軽減に関する研究（納豆菌の水質浄化作用に関する研究）	滝口　　智, 坂本　　渚	多田　光男
シート状ヒートパイプにおける作動媒体の循環流量増大手法の検討	福場　　奏	筒井　壽博
熱機関効率の簡易計測手法の検討	森口　大樹	筒井　壽博
混合パラメータがBDF生成に与える影響についての調査	前田実知也, 赤木　　剛	秋葉　貞洋
ガスバリア材料への応用を目的とした層状複水酸化物の作成と分散性評価	川崎　壮庸	池田　真吾
大型結晶を持つ層状複水酸化物（LDH)を用いた温度応答性ガスバリア膜の作製と特性評価	池内　大雅, 眞部　将麻	池田　真吾
NIPAゲルを利用した防汚塗料の開発Ⅲ	大本　隆介, 在間　直貴	村上　知弘
環境配慮型ゲル状潤滑油の開発	黒川　耀工, 鶴村凛太郎	村上　知弘

平成30年度 電子機械工学科5年卒業研究テーマ

タイトル	学生名	指導教員
電子顕微鏡の修理と改造	内海　祐希, 羽藤　海斗	藤本　隆士
海底ごみの調査のためのNGI型ROVの開発	赤澤　祐哉, 稲丸　晶太, 林　　晃魁	長井　弘志 木村　隆則
海洋マイクロプラスチック汚染調査に伴う採取技術及び有機物質除去法の研究	池田　彰吾, 中村　菜穂, 横山ひかり	木村　隆則 長井　弘志
1/fゆらぎによる自律神経調節に関する研究	井門　早姫	DAVAA Ganbat
2018 Ene-1GP SUZUKA出場のための車両製作に関する研究	西原　健朗, 山田　　陸	瀬濤　喜信
海洋パイオニアスクールプログラムの教材作成に関する研究 －海洋における水中ドローンの操作と制御（２）－	弓戸　皐生, 若松　芽生	瀬濤　喜信
小型船における着岸システム支援装置に関する基礎的研究 －ビジョンセンサを用いた動体認識システムとその軌道検出システムの開発－	福本　知希	大根田浩久
実環境における自律移動体の自己位置推定に関する基礎的研究 －ビジョンセンサを用いた色による物体認識について－	平口　雄貴	大根田浩久
高専ロボコン2018のためのロボットの製作－ペットボトル投擲機構の製作－	武田　　海, Erdenetsogt Gansukh	大澤　茂治
高専ロボコン2018のためのロボットの製作－移動機構及び装填機構の製作－	濱田　孝明, 渡邉　　亮	大澤　茂治
災害に強い水陸両用電気自動車の製作	内海　遥稀, 松本　宙依	福田　英次
エコバイクの製作2018年	佐川　瑞希	益崎　真治
OpenFOAMを用いたプロペラ周りの流体の数値解析	加藤　雄大, 高見　峻平, 土居　大貴	政家　利彦
水性塗料対応排気装置の開発	半田　宇人	森　耕太郎
高重量型熱重量測定装置の開発と評価	渡邉　敬太, 渡部　準也	森　耕太郎

平成30年度 情報工学科5年卒業研究テーマ

タイトル	学生名	指導教員
画像検索機能を有する携帯型掲示板システムの開発	坂上　満哉, 中山　　嶺	田房　友典
IoTと魚群探知機を活用した定置網漁業の効率化	Pantuhong Sorasiri	田房　友典
携帯可能な小型環境調査船の開発と操作支援システム －航海・環境データのモニタリングシステムの開発－	益田　大輝	田房　友典
携帯可能な小型環境調査船の開発と操作支援システム －環境調査船の開発と御釜調査結果－	山本　廉太	田房　友典

タイトル	学生名	指導教員
コンピュータグラフィックスの教材作成	富山　辰海	高木　洋
校内井戸再利用のための予備調査および設計	河上　篤矢, 黒川　聖矢, 中村　夏綺, 宮崎　透海	桝田　温子 塚本　秀史
Kinectを用いた新たなポインティングインターフェースの開発	村上　蓮	益崎　智成
ARマーカーを用いた位置姿勢計測システムの開発	羽藤 仁志	益崎　智成
ARマーカーを用いた射影変換による画像補正システムの開発	島谷謙太朗	益崎　智成
ニューラルネットワークによるアンテナ共振周波数の予測	Muhammad Syafiq bin Shahidan	藤田　佳祐
電波強度を可視化するアプリの開発について	松川　瑞樹	藤田　佳祐
水中でのIoT活用のための水中アンテナに関する基礎検討	松本　泰誠	藤田　佳祐
GISを活用した1/2500弓削島模型の製作	井上　香澄, 小藪　紗生, 田窪　舞, 升田　美琴, 宮本　杏里	前田　弘文
海洋マイクロプラスチック汚染調査に伴う有機物質除去の研究	櫻井　吟, 清水　悠里, 山﨑　舞子	高木　洋
聴覚障碍者の歩行を支援するための地磁気の活用に関する基礎的検討	小田　原雅	葛目　幸一
IoTを活用したペットの健康管理システムの開発	宮丸　尚士, 肥田　唯斗	葛目　幸一
災害情報管理システムの構築－ICTを活用した避難所の運用システムの検討－	福井　亮, 平谷　冴, 村上　杏奈	葛目　幸一 桝田　温子
瀬戸内海島嶼部の旅客航路について	岡本みのり, 新川　陽葉, 渡部　百香	塚本　秀史
学生が作成した学生のための学生生活ガイド	一矢 凌馬, 竜田 雄矢	峯脇さやか
翻訳委託機能を有する国際縁結びサイトの作成	後藤　彰宏, 坂口　将也, 高木　延蔵, 田名　後迅, 宮本　将利	徳田　誠
仮想化技術（LXD）を用いた高可用性静的WEBサイトの運用に関する研究	熱田　尚大	長尾　和彦
瀬戸内海におけるLPWAと携帯電話の電波状況の調査	石井　鈴花	長尾　和彦
IoTデバイスの活用による教室環境と授業集中度に関する研究	藤原　巧未	長尾　和彦
スマートスピーカーを活用した通報システムとの連携	岡野　涼	長尾　和彦
学生の学習モチベーションUPのためのサポートツールに関する研究	信藤　幸揮	峯脇さやか
E-Learningにおける記述式問題の自動採点	兵頭　俊多	峯脇さやか

平成30年度 電子機械工学科・情報工学科卒業生 各賞受賞者

賞　名	電子機械工学科	情報工学科
体育功労賞	井門　早姫（陸上競技部） 松本　宙依（陸上競技部） 内海　遥稀（野球部） 稲丸　晶太（ソフトテニス部）	肥田　唯斗（陸上競技部）　清水　悠里（バドミントン部） 岡本みのり（野球部）　黒川　聖矢（野球部） 小藪　紗生（ラグビーフットボール部）
文化功労賞	（３Ｄデザイン同好会） 井門　早姫, 武田　海, 西原　健朗, 山田　陸, 弓戸　皐生, 横山ひかり, 若松　芽生	新川　陽葉（美術部） 升田　美琴（書道部）
同窓会会長賞	松本　宙依	井上　香澄
日本機械学会畠山賞	弓戸　皐生	
電気学会・電子情報通信学会・情報処理学会　四国支部奨励賞	武田　海	ブーム
日本マリンエンジニアリング学会優秀学生奨励賞「山下勇賞」	池田　彰吾	
特別精励賞		井上　香澄, 田窪　舞
精励賞	赤澤　祐哉, 西原　健朗, 松本　宙依, 山田　陸	石井　鈴花, 益田　大輝, 岡本みのり, 升田　美琴, 河上　篤矢, 松川　瑞樹, 後藤　彰宏, 松本　泰誠, 清水　悠里, 山本　廉太, 中山　嶺, 肥田　唯斗, シャフィック, ブーム

平成30年度 電子機械工学科卒業生 就職・進学先一覧

就職先

（50音順）

株式会社アイチコーポレーション	株式会社赤阪鐵工所	アンデックス株式会社
井原精機株式会社	NOK株式会社	大分キヤノン株式会社
キヤノンメディカルシステムズ株式会社	コニカミノルタジャパン株式会社	島津メディカルシステムズ株式会社
GEヘルスケアジャパン株式会社	大洋電機株式会社	ダイキンMRエンジニアリング株式会社
帝人株式会社	日本オーチス・エレベータ株式会社	富士電機株式会社
株式会社堀場製作所	株式会社マツダE&T	三井E&Sシステム技研株式会社
三井造船株式会社 大分事業所		

進学先

豊橋科学技術大学	長崎総合科学大学	弓削商船高等専門学校 専攻科

平成30年度 情報工学科卒業生 就職・進学先一覧

就職先

(50音順)

アークレイ株式会社	渦潮電機株式会社	NTTコムエンジニアリング株式会社
株式会社NTTフィールドテクノ	大分キヤノン株式会社	関西電力株式会社
キヤノンシステムアンドサポート株式会社	京セラ株式会社	国立印刷局
小松製作所	コニカミノルタジャパン株式会社	JFEスチール株式会社西日本製鐵所
セイコーエプソン株式会社	株式会社タブチ	大栄環境株式会社
チームラボ株式会社	常石造船株式会社	株式会社ディスコ
東芝ITサービス株式会社	日東電工株式会社	株式会社ひめぎんソフト
三菱電機ビルテクノサービス株式会社	富士電機株式会社	株式会社古川製作所
株式会社マツダE&T	株式会社ミウラ	株式会社メンバーズ
株式会社リコー		

進学先

佐賀大学	東京情報大学	豊橋技術科学大学
長岡技術科学大学	弓削商船高等専門学校　専攻科	

平成31年度 専攻科(生産システム工学専攻)修了生 就職・進学先一覧

就職先

(50音順)

嶋本ダイカスト株式会社	JFEスチール株式会社	株式会社日立超LSIシステムズ

進学先

九州工業大学大学院		

平成31年度　入学式

平成31年4月6日(土)10時より，本校第二体育館において，平成31年度入学式が挙行されました。

新入生は，商船学科40名(女子7名)，電子機械工学科42名(女子4名)，情報工学科38名(女子16名)，専攻科生産システム工学専攻8名(女子1名)の合計128名でした。式に臨んだ新入生たちは，校長，来賓，保護者，教職員，在校生列席のもと，学級担任教員から，一人一人名前を読み上げられ，校長から入学許可を受けました。その後，本科入学生代表(長畑桜弥さん)・専攻科入学生代表(山本廉太さん)が宣誓の言葉を述べられました。続いて，校長式辞，上島町長宮脇馨氏から祝辞があり，祝電が披露されました。

その後，在校生総代(髙原勝樹さん)から歓迎の言葉があり，入学生総代(阿部快航さん)から答辞が述べられました。

平成31年度 前期級長・副級長・学級担任一覧

学　科	商船5年	電子5年	情報5年	商船4年	電子4年	情報4年
級　長	鈴木　凌大	清水　十夢	檀浦　紗弥	田村　安志	渡邉　亮汰	旗手菜々子
副級長	正木　崇善	中嶋　真也	小野　日麗	藤本　剛輝	岡田　健生	藤原　望音
学級担任	筒井　壽博	福田　英次	徳田　誠	柳沢　修実	長井　弘志	塚本　秀史

学　科	商船3年	電子3年	情報3年	商船2年	電子2年	情報2年	商船1年	電子1年	情報1年
級　長	東　数馬	鳴川　匠	落畑　涼介	山口　弘記	住田　凌真	原　楓子	山中紳之條	上野　智貴	藤木沙弥華
副級長	伊藤　弘太	徳岡　青樹	矢尾優美香	岩部　悠紀	奥田　晟二	和田　彩花	田頭　佳乃	宮地　巧翔	奥野　雄大
学級担任	秋葉　貞洋	大根田浩久	石田　紗瑛	池田　真吾	冨永　亮	伊藤　武志	藤井　清治	日下　佳春	葛目　幸一

商船2年生
海技教育機構による短期実習

【練習船】 銀河丸　全長 116m　幅 18m　総トン数 6,185トン
【期　間】 平成31年3月1日～3月31日
【乗船地】 神戸港新港第二突堤
【寄港地】 久里浜港　　名古屋港
【下船地】 東京有明多目的埠頭

平成31年3月1日，神戸港新港第2突堤より，銀河丸へ乗船しました。学生たちは不安や期待の表情で，大きな荷物を抱えて，銀河丸へ乗り込んでいきました。3月3日に神戸港を出港し，3月9日に久里浜港，3月19日に名古屋港へ寄港しました。そして，3月28日に東京に入港し，31日に下船しました。下船式での学生たちの表情はたのもしく，実習での成長を感じました。

KCC国際インターンシップ紹介

国内の商船学科を持つ高専5校と，ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ(KCC)とで行われるインターンシップは，毎年3月に実施されており，今年で10回目の開催となりました。本校からは商船学科3年生が3名参加し，日本から合計10名の学生と引率教員がハワイ州カウアイ島へ向かいました。研修では現地学生に対するプレゼンテーションや，伝統航海術を学ぶトレーニングプログラムに参加するなど，異文化交流と言語学習に励みました。(写真左:ハワイの伝統航海カヌーを用いた実習に参加　写真右:日本文化に関するプレゼンテーションを行う日本人学生)

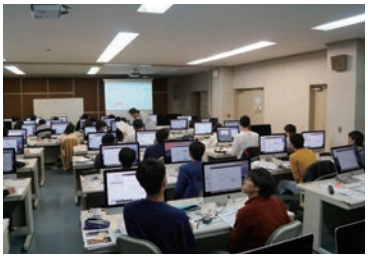
留学生・チューターとの花見会

4月6日晴天の中，留学生とチューターとのオリエンテーションを兼ね，弓削島大谷公園で花見をしながらの昼食会を行いました。本年度の留学生はマレーシアからのアシュラフ学生とアブ学生，ラオスからのジャイ学生です。彼等は来日してから既に1年以上経ち，日本語も上達してクラスにも溶け込めている様です。国際交流推進室では，低学年クラスに対する留学生の母国紹介(プレゼンテーション)，商船祭における母国紹介(ポスター発表)，総合文化祭における日本文化体験学習，日本文化の実地研修旅行等を計画しています。本校学生が留学生との交流を通して，国際感覚を向上出来ることを期待しています。

地域創生コーナー

以下の取り組みは，平成30年度KOSEN（高専）4.0イニシアティブ事業
「離島工学に基づく防災・減災に精通したIoT技術者育成プログラム」
『「KOSEN（高専）と産業が連携した次世代海洋人材の発掘と確保」』の一環として実施したものです。

sakura.io体験ハンズオンの開催



11月13日（火），さくらインターネット株式会社を招いて，「sakura.io体験ハンズオン」を実施しました。情報工学科3年生から5年生，電子機械工学科の5年生や専攻科生の希望者39名と教員4名が参加しました。

ほとんどの参加者は，IoT（Internet of Things）とよく耳にするが，実際に触れたことがない，クラウドは利用したことがあるが自らが設定するのは初めてという学生でした．約3時間のハンズオンを体験した学生は，基礎知識となる組込みやWebに関する知識を既に持っており，クラウドを利用したIoTの仕組みを十分に理解でき，大変満足していました。

今後，本校ではIoT技術を活用できる技術者を育成し，地域の抱える問題などをIoTで解決するプロジェクトを推進していく計画です。

防災講習会を実施

11月16日（金），愛媛大学防災情報研究センター長の森脇亮教授を招いて，「実例に学ぶ防災の基礎知識」というテーマで「防災講習会」を実施しました。1年生全員及び学生会・寮生会の役員に教職員を加えた約160名参加しました。

森脇教授からは，平成30年に発生した主な自然災害の紹介を皮切りに，愛媛県でも大きな被害を受けた7月の「西日本豪雨災害」についても，当時の気象の概況や各地の雨量，土砂災害警戒判定メッシュ情報，洪水警報の危険度分布，土砂災害の被害の状況など具体的な資料を提示され，わかり易く説明していただきました。

また，高い確率で発生が予測されている「南海トラフ巨大地震」だけでなく，いつ起きるかわからない災害に備えるための「防災マップ」の見方や災害時における優先順位は「自助」・「共助」・「公助」であること，防災力を強化していくためには防災教育の充実していくことが重要であることなど多くの教示をいただき，充実した内容となりました。

本校でも，7月の西日本豪雨災害の影響を受け，上島町が10日あまりの断水となり，学寮の生活維持が困難となったため臨時休校措置をとりました。このようなこともあり，飲料水を含めた「水」の重要性を痛切に体験したばかりでしたので，今回の講習会は学生にとっても身近な事象としてとらえられたのではないかと思います。

避難生活支援キット利活用講習会を実施

11月30日（金），「避難生活支援キット利活用講習会」を白雲館2階研修室で実施しました。上島町総務課危機管理室の能地係長，羽藤さんにも参加いただき，学生会役員5名，寮生会役員8名，運動部系クラブリーダー18名に教職員を加えた約40名が参加しました。

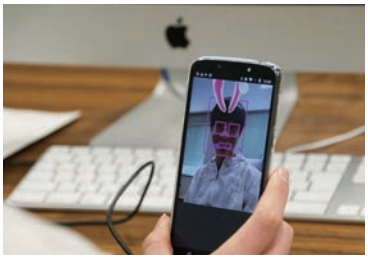
はじめに長尾学生主事から本講習会の趣旨説明（災害時の避難生活に積極的に対応できる学生の防災リーダーとしての自覚，認識を高めるとともに，当該分野において地域協力，社会貢献できる人材育成を目指す事）がなされ，その後すぐにグループに別れて，①簡易テント（間仕切り）の組み立て，②段ボールベットの組み立て，③簡易トイレの組み立て・消耗品（トイレ用収納袋）の装着・使用法などの実習を行いました。

参加した学生は，最初は初めてのこともあり，少し緊張気味に戸惑う雰囲気も感じられましたが，慣れてくるとテキパキとした動作とともに，説明書を見ながらでも要領よく組み立てができました。

能地係長からは，「上島町でも避難生活支援キットの取扱講習を防災リーダーの方々を中心に行うことがありますが，高齢者の方が多く，組み立てにも時間がもっとかかっていたような気がします。若い人は要領さえ覚えれば，短時間で作業ができますので，いざという時は地域のために協力して頂ければありがたい」旨のコメントもいただきました。

避難生活支援キット利活用講習会の開催は，本校では初めての試みでしたが，参加学生には有意義な時間となったと思われます。災害が「忘れた頃にやってきた」とならないように，本校でも定期的な行事として取り組み，意識啓発だけに留まらず，少しで社会に役立つ実践的な防災リーダーの育成の輪を拡げていければと思っています。

Androidアプリ開発入門講習会を実施



3月8日（金），日本Androidの会香川支部から2名の講師を本校情報処理演習室にお招きして，「Androidアプリ開発入門講習会」を実施しました。情報工学科3年生から5年生，専攻科生の希望者23名が参加し，9時から休憩を挟んで17時まで，実機（スマートフォン）に開発したアプリをインストールするまでを学習しました。

講習会は，アプリ開発の基本を学び，ボタンだけのアプリからセンサー利用，音声認識，画像処理などクラウドを利用したサービスを利用したアプリの作成方法を体験しました。

アプリの作成方法を学んだ学生たちは，今後，地域の抱える問題などをスマホアプリを利用して解決するプロジェクトを推進していく計画です。

「船を知ろうよ!～徳島小松島港開港70年記念イベント～高専フェア in 徳島」を実施

徳島県内の小学校8校（児童約460名，引率教員約50名）を対象に，本校，徳島県，日本船主協会の三団体による「船を知ろうよ!～徳島小松島港開港70年記念イベント～高専フェア in 徳島」を実施し，8月17日（金）及び9月5日（水）～7日（金）に出前授業を，9月11日（火）～13日（木）に練習船「弓削丸」体験航海イベントを行いました。

出前授業では，本校教員2名が各校へ出向き，船の事，海洋の事，またそれらに関連する仕事について話し，船舶が日本にとって必要不可欠なものであることを児童たちに伝えました。

練習船「弓削丸」体験航海イベントでは，初めて船に乗る児童も多く，実際に海や船を体感することによって船に対する興味を湧きたたせることができました。また，陸上ではロープワークや紙コップロケット体験なども実施し，児童，特に引率教員に好評でした。

参加した児童からは，「船に関係している仕事が大切だとわかりました」「新しい発見をさせていただきありがとうございました」「船の仕事をやってみたいなと思いました」といった感想が寄せられました。

このイベントは，小学生及び引率教員に対する海事の啓蒙という意味で大変有効なものとなりました。

各種行事のアルバム

テーブルマナー講習会　10月

デザインコンペティション　11月

知的財産管理検定3級試験対策講座　11月

今治市ものづくり体験講座　11月

モンゴル科学技術大学より教員・学生が本校で短期留学
11月

第48回商船祭　11月

オープンキャンパス　11月

キャリア教育フォーラム　12月

新入生オリエンテーション　4月

困ったときは気軽に相談　学生相談室

学生相談室担当の専門スタッフを紹介します

利用方法

1)「保健室」で予約を取る。
2)担任の先生を通して予約を取る。
3)counsellor@office.yuge.ac.jp にメールを送る。(学年とお名前を書いてください。)
4)直接「学生相談室」に行ってみる。

保健室予約がおすすめ

眞鍋　一水(まなべ いっすい)

臨床心理士

学生相談室の役割は，学生の皆さんが本校に来てよかったと思ってもらえるように学校生活を支援し，納得できる将来を生きていけるように相談にのることだと思っています。困っていることや心配ごとの解決に向け，積極的に一緒に取り組んで行ければと思います。悔いのない学校生活にするために，ぜひ気軽に利用してください。

学生の皆さんに加え，保護者の皆様にもご利用頂けます。どうぞよろしくお願いします。

	時間	資格	担当
月・火	12時～18時	臨床心理士	桝谷
火	15時～18時	相談員	春田
水	12時～17時	スクールソーシャルワーカー	坂本
木・金	14時～19時 12時～17時	臨床心理士	眞鍋

桝谷亜由子(ますたに あゆこ)

臨床心理士

学校生活を送る中で出会う，いろいろなことがらについて，相談を受け付けています。皆さんがより充実した学校生活を送れるよう，サポートしていきたいと考えています。「こんなこと自分だけかも…」「こんなことで行っていいのかな…」などと心配せずに，気軽に相談室を利用してください。

坂本　和夫(さかもと かずお)

スクールソーシャルワーカー(SSW)

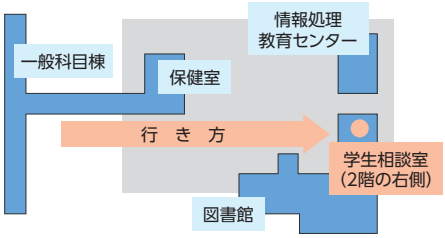
SSWは，子どもの最善の利益の実現を目指します。心配や困りごと，小さな問題から困難なこと，或いは何か気になるなとかこれってどうなのと些細かなと思うことから何でも，遠慮なくスクールソーシャルワーカーを利用して頂ければと思います。改善に向けて一緒に考え行動することができます。みなさんよろしくお願いします。

春田　裕和(はるた ひろかず)

学習支援

40年間，公立中学校で，理数教育，進路指導，教育相談，生徒指導に関わり，学業不振，不登校や発達障害を抱えている生徒や保護者の支援を行いました。

私の役割は，「卒業時に学生の皆さんが弓削商船高専で学んでよかった」と思える学生生活が送れるように，学習の仕方，人間関係，職業適性などの問題の解決を手助けすることです。どなたでも気軽に相談室へお越しください。



野口　隆(のぐち たかし)

学生相談室長

「友だちとうまくいってない」「授業についていけない」「寮での生活になじめない」など困っていることがあればいつでも気軽に話をしに来てください。研究室は一般科目棟4階です。よく話を聞いて皆さんの悩み事の解決に向けて一緒に考えたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

学生相談室の在学生に関する相談であれば，ご家族からの相談でも受け付けています。
問い合わせ先は，保健室です。

リラクセーション法の紹介(1)

いつでもどこでもリラックス　腹式呼吸

新しい環境，初めてのことは誰でも緊張します。緊張したり不安を感じると，呼吸が浅くなったり筋肉が緊張して体のバランスが崩れてしまいます。そのバランスを自分でコントロールするには，呼吸法が効果的。深くゆっくり呼吸すれば，心も体も落ち着いてきます。

①と②を数回繰り返してみてください。秒数はだいたいで大丈夫です。吐くのを多めにするのがポイント。

やり方がわからない場合は，学生相談室に来てください。

①口から6秒息を吐く(お腹をへこます)
②鼻から4秒息を吸う(お腹を膨らませる)